

地域福祉推進計画
実施計画ロードマップ

【重点取組2】福祉学習の推進と担い手づくり
基本目標1:住民参加の促進と福祉活動の活性化/基本計画3:福祉学習の推進と担い手づくり/
(1)福祉学習のプラットフォームづくり (2)子どもを対象とする福祉学習の推進 (3)地域における福祉学習の推進

【めざす姿】 (1) 福祉事業者、学校関係者、当事者団体、ボランティア等様々な機関や団体が参加したネットワークが形成され、従来の体験型学習から実践型学習へ転換した福祉教育プログラムづくりが進んでいます。
(2) 子ども向けの福祉学習プログラムが充実しています。
(3) 住民・ボランティア向けの福祉学習プログラムが充実し、地域福祉の担い手の育成が進んでいます。

年次	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度	【評価基準】 A:目標をすべて達成 B:目標の半分以上を達成 C:着手済み D:未着手
総合評価	(1)	D	D			
	(2)	D	C			
	(3)	D	D			

重要業績評価指標(KPI)	地域振興協議会・民間団体の役割	社会福祉協議会の役割	行政の役割
(1)福祉学習のプラットフォームづくり 1. すべての地区において、地域振興協議会、学校、幼稚園・保育園、福祉団体・事業所、企業等の参加によって協議と協働の場（地域プラットフォーム）が立ち上がり福祉学習プログラムの開発が進む 2. 全町版プラットフォームが立ち上がり、各地区の活動状況やノウハウが広く共有される (2)子どもを対象とする福祉学習の推進 1. すべての小・中学校において、障がい者等の当事者団体や地域振興協議会、福祉専門機関との協働で新たな人権・福祉学習プログラム（実践学習を含む）を実施 2. 地区の福祉活動や福祉施設等でのボランティア活動に参加したところのある子どもの割合が5割以上 (3)地域における福祉学習の推進 1. すべての地区において、障がい者等の当事者団体や福祉専門機関等との協働で新たな人権・福祉学習プログラムを実施 2. 主要な企業・事業所において、障がい者等の当事者団体や福祉専門機関等との協働で新たな人権・福祉学習プログラムを実施 3. すべての地区において、多様な世代の住民が参加したボランティア組織が形成され、今後の福祉活動に必要な担い手を確保	(1)福祉学習のプラットフォームづくり 【期待される主体】地域のあらゆる主体 ●学校、福祉団体・事業所、企業等の多様な主体による協働の場（地域プラットフォーム）に参加し、福祉学習プログラムを共に作り、学び、実践に努めます。 (2)子どもを対象とする福祉学習の推進 【期待される主体】地域のあらゆる主体 ●健康や福祉・人権問題に対する理解の促進を図ります。 ●地域プラットフォームにおいて実践型福祉学習プログラムを検討・実施します。 ●当事者参加型の福祉学習プログラムを検討・実施します。 (3)地域における福祉学習の推進 【期待される主体】地域のあらゆる主体 ●講演会・研修会等福祉を学ぶ多様な福祉学習プログラムを企画・実施します。 ●各種研修会へ積極的に参加します。 ●当事者参加型の福祉学習プログラムを検討・実施します。 ●健康や福祉・人権問題に対する理解の促進を図ります。	(1)福祉学習のプラットフォームづくり ●地域プラットフォームの形成と活動支援を行います。 ○様々な地域の関係者との連携や調整 (2)子どもを対象とする福祉学習の推進 ●地域プラットフォームを通じた実践型福祉学習プログラムの開発と活動支援を行います。 ○福祉学習出前講座の実施 ○夏休みボランティア体験事業の実施 (3)地域における福祉学習の推進 ●地域プラットフォームを通じた実践型福祉学習プログラムの開発と活動支援を行います。 ●地域振興協議会との連携による多様な講演会、研修会を企画・実施します。	(1)福祉学習のプラットフォームづくり ●地域プラットフォームの形成の支援及び参加に努めます。 ●教育委員会等（行政部門）との連携を強化します。 (2)子どもを対象とする福祉学習の推進 ●地域プラットフォームを通じた福祉学習プログラムづくりを支援します。 (3)地域における福祉学習の推進 地域プラットフォームを通じた福祉学習プログラムづくりを支援します。

年次	進捗の目安	地域振興協議会・民間団体の取り組み実績	社会福祉協議会の取り組み実績	行政の取り組み実績	その他特記事項
2021 (R3) 年度	◎【重点取組1】で実施されるモデル地区事業を通じて形成されるネットワーク組織を基盤に地域プラットフォームを立ち上げ、プラットフォームに参加する多様な主体を対象に、地区の現状把握・課題整理や地域福祉推進計画への理解を促進するための研修会を実施 ◎モデル地区では、次年度以降実施する介護予防活動や地域福祉活動の企画とあわせて、地域や学校で実施すべき福祉学習プログラムを企画・開発し、実施に向けて準備 ◎モデル以外の5地区においても地域振興協議会を核とするネットワーク組織を立ち上げ、地域プラットフォームの原型を形成して地域福祉推進計画に対する周知と理解促進を図る。さらに、次年度からのモデル地区事業の開始に向けて、必要な研修や人材発掘などの取り組みを順次開始	▼東西町地域振興協議会 ▼天津地域振興協議会 ▼大田地域振興協議会 ▼法勝寺地区地域振興協議会 ▼南さいはく地域振興協議会 ▼あいみ手間山地域振興協議会 ▼あいみ富有の里地域振興協議会	【予定される取り組み】 ◎役職員の地域福祉推進計画に対する理解促進に向けて研修会を開催（次年度以降も必要に応じて開催） ◎モデル地区事業で形成されるネットワーク組織を基盤とする地域プラットフォームの形成支援 【取組実績】 ◎R3年4月地域福祉推進計画社協役員研修会を実施	【予定される取り組み】 ◎職員の地域福祉推進計画に対する理解促進に向けた研修会の開催（次年度以降も必要に応じて開催） ◎モデル地区事業で形成されるネットワーク組織を基盤とする地域プラットフォームの形成支援 【取組実績】 未実施	
2022 (R4) 年度	◎モデル地区を全地区に拡大し、すべての地区で地域プラットフォームの立ち上げを完了するとともに福祉学習プログラムの企画・開発を行う	▼東西町地域振興協議会 ◎医師を講師とする健康講演会の実施、東西町スポーツ広場の草取り（近隣使用者全員による作業） ◎夏休みみんなでラジオ体操、夏休み子ども塾、リサイクル活動（年3回） ◎地域福祉コーディネーターを中心としての福祉関連研修会参加、各区単位による人権学習会の継続実施 ▼天津地域振興協議会 ◎地域福祉懇談会を立ち上げ 地域福祉推進計画達成のための事務局・チーム編成決め ▼大田地域振興協議会 ▼法勝寺地区地域振興協議会 ▼南さいはく地域振興協議会 ◎関係機関に依頼し地域住民・関係職員の福祉学習プログラ	【予定される取り組み】 ◎モデル地区事業で形成されるネットワーク組織を基盤とする地域プラットフォームの形成・活動支援（次年度以降も継続） ◎新たな福祉学習プログラムの企画・開発及び実施支援 【取組実績】 ◎各地区ともまだ地域プラットフォームの形成にまでは至っていない。 ◎新たな福祉学習プログラムの企画・開発及び実施支援は未実施 ◎子どもを対象とする福祉学習の推進として会見小学校、西伯小学校、会見第二小学校人権教育出前授業実施 ◎会見小学校 クラブ活動支援（ユニバーサルクラブ）年間8回実施。	【予定される取り組み】 ◎モデル地区事業で形成されるネットワーク組織を基盤とする地域プラットフォームの形成・活動支援（次年度以降も継続） ◎新たな福祉学習プログラムの企画・開発及び実施支援（特に教育委員会や行政部門間の調整） 【取組実績】 ◎福祉推進事務局（南さいはく）、福祉推進委員会（東西町）へ参加し、ネットワーク組織を支援	

		ム実施を検討 ▼あいみ手間山地域振興協議会 ▼あいみ富有の里地域振興協議会	◎夏休みボランティア体験事業 小学校6年生 2日間 1日程 1名参加 中学校3年生 3日間 2日程 13名参加		
2023 (R5) 年度	◎すべての地区と小・中学校、ならびに主要な企業・事業所で地域プラットフォームによって企画・開発された新たな福祉学習プログラムを実施 ◎各地区の第4期地域づくり計画の見直しにあわせて、改めて地区に必要な福祉学習プログラムを検討し、地域づくり計画に位置付ける ◎全町版プラットフォーム（連絡会）を立ち上げ、各地区の活動状況やノウハウ、今後の課題等を抽出・共有する	▼南さいはく地域振興協議会 ◎地域住民のための福祉学習プログラムの実施 ◎地区内小・中学生のための福祉学習プログラムの実施 ◎広報誌に上記活動を掲載・広報 ◎重点取組2について各協議会の活動の情報交換を行い・自協議会活動への評価・改善につなげる ◎PDCAサイクルを元にこれまでの活動の継続・廃止・発展を検討・次期取り組みへ反映	【予定される取り組み】 ◎全町版プラットフォーム（連絡会）の設立・活動支援（次年度以降も継続） ◎新たな福祉学習プログラムの実施支援（次年度以降も継続） ◎第4期地域づくり計画の策定支援（次年度以降も必要に応じて継続）	【予定される取り組み】 ◎全町版プラットフォーム（連絡会）の設立・活動支援（次年度以降も継続） ◎新たな福祉学習プログラムの実施支援（次年度以降も継続） ◎第4期地域づくり計画の策定支援（次年度以降も必要に応じて継続）	
2024 (R6) 年度		▼南さいはく地域振興協議会 ◎地域住民福祉学習プログラム実施（継続） ◎広報誌に福祉学習プログラム情報掲載（継続） ◎PDCAサイクルを元にこれまでの活動の継続・廃止・発展を検討・次期取り組みへ反映			
2025 (R7) 年度	◎地区の福祉活動や福祉施設等でのボランティア活動に参加したことのある小・中学生の割合が5割を超える ◎すべての地区で多様な世代の住民が参加したボランティア組織が形成され、福祉活動を持続させるのに必要な担い手が確保される	▼南さいはく地域振興協議会 ◎これまでの活動を維持・継続 ◎PDCAサイクルを元にこれまでの活動の継続・廃止・発展を検討・次期計画へ反映	【予定される取り組み】 ◎新たな福祉学習プログラムの効果の検証と次期推進計画の策定に向けた課題の集約 ◎事業・取り組みの効果と課題の検証を行い、次期計画へ反映させる	【予定される取り組み】 ◎新たな福祉学習プログラムの効果の検証と次期推進計画の策定に向けた課題の集約 ◎事業・取り組みの効果と課題の検証を行い、次期計画へ反映させる	